

詩吟・尺八 同好会

東京秋工会 監事

鈴木 彦之

(昭和31年機械科卒)



最近、引っ越し先の近くにある高齢者市営住宅に出向き、ボランティアで塩ビ管尺八2本をおみやげに尺八演奏の出前を試みました。入居者は65歳以上で私と同年代と思しき人達が20名程集まりました。入居者で紹介者の娘さんが添乗員の仕事をしていた沖縄の蛇味線(三線：サンシン)を習い初めて3年、演奏ができるということで、二人で交互に約1時間、尺八は童謡、歌謡曲、民謡など7曲、三線は沖縄の曲を中心に5曲、初対面の二人が途中コラボで沖縄の「花」を1曲、解説を交えながら13曲を演奏しました。最後に同窓会で入手したお座敷小唄の替え歌、「ボケない小唄」を歌ったら身に覚えのある皆さんから、思った以上に拍手があり大うけしました。

毎月1回、市から職員が出向き、種々の連絡事項を伝えるために見えているようで、今回は時間を延長してこのような催しをしたようです。このような活動を今後も続けてみようと思います。

今年の同窓会の総会では、尺八だけの演奏を数名でチャレンジしたいと思っています。

一方、詩吟同好会は大和豊山流の川村溪泉先生に入門して8年になりました。稽古場所は変わりましたが、2年に1度の昇段試験ではほぼ全員が段持ちになり雅号を戴きました。試験は自分で選ぶ自由吟と指定される課題吟の2曲があり、いずれも詩を暗記しなければならず、硬くなった頭では覚えきれずにすぐに忘れてしまいます。茶色のテキストがまもなく終了し、2冊目の黄色いテキストに移るまで進んできました。進み具合により3ランクに分けて稽古をしていますが、もう全員が先生に指摘されないまでに上達しました。

漢詩の創作も相馬洋風師から王子雲(嵯峨良平氏)に引継がれ、新しい漢詩が次々に生まれて、毎回総会で発表しています。

雅号のメンバーは次の通りです。

三段 鈴木笙風、三平旭風

二段 加賀谷環風、地主碓風、佐々木里風

初段 伊藤周風、西岡羽風、(故)三浦奉風

また、年に1度は各ブロックのメンバーが一堂に会し白井市文化会館で大和豊山流の詩吟大会があり、日頃の練習の成果が試されます。昇段試験に合格した人がここで認定証書を授与されます。

詩吟の稽古は月に1度、第4土曜日に尺八とKANASAの編集会議に合わせ、大声を張り上げて、新宿の音羽亭で行なっています。声を出ることが健康と自信につながっているようです。新しい会員も入ってきています。皆さんも気楽に参加してください。

第16回 詩吟大会

於 白井市文化会館



地鶏串焼割烹
音羽亭

TEL. 3345-9434

新宿区西新宿6-6-2 ヒルトンホテルB1

◆営業時間 / PM5:00~PM10:00 ◆日曜・祭日はお休みです。
(ランチタイム / AM11:30~PM1:30)